

大阪市立加美小学校 教育理念(案)

令和4年3月3日 第4回・調整版

「加美小学校の教育理念・地域立」

この教育理念は、本校の具体的な教育活動の羅針盤となることを期し、「加美」の地域・保護者が教職員と共に、「加美」の子どもたちが将来の地域・社会を創り担う人になることを期待し、時代・時流に左右されない理念とする。

「人、学ばざれば智なし」「実学を旨とする」

真に生きる力の獲得とは、「学び」にあり、実社会・実生活と結びついた「実学」にある。

加美に根付いた「優しさ・助け合い・安心感(安全)」を守り続け、日本の伝統的教育である「知育・徳育・体育」のバランスを取りつつ、「実学」の基となる、基礎学力・基礎体力、日々の生活における基本的な習慣、社会性の涵養のための基本的な規範意識の醸成を加美小学校の教育活動の柱とし、より多くの体験的・活動的・実践的な教育活動の機会を提供したい。地域・保護者・教職員は、子どもたちの育成に集中し、話し合い、信頼しあい、協働し、子どもたちと共に、挑戦し成長し続ける学校・共同体を創る。

* * * スローガン * * *

【子どもの笑顔のある学校】

強い子 明るい子 正しい子

「解説」

「加美小学校の教育理念・地域立」

この教育理念は、本校の具体的な教育活動の羅針盤となることを期し、「加美」の地域・保護者が教職員と共に、「加美」の子どもたちが将来の地域(加美・平野)・社会を創る人になることを期待し、時代・時流に左右されない理念とする。

「人学ばざれば智なし」「実学を旨とする」※1

真に生きる力の獲得とは、「学び」にあり、また机上の学問に終わるのではなく、実社会と結びついた「実学」にある。

加美小学校は、「実学」の基となる、基礎学力・基礎体力、日々の生活における基本的な習慣、社会性の涵養のための基本的な規範意識の醸成を目指す。また、加美に根付いた「優しさ・助け合い・安心感(安全)」を守り続け、日本の伝統的教育である「知育・徳育・体育」のバランスを取りつつ、より多くの体験的・活動的・実践的な教育活動の機会を提供する。地域・保護者・教職員は、子どもたちの育成に集中し、話し合い、信頼しあい、協働し、子どもたちと共に、挑戦し成長し続ける学校・共同体を創る。

※1 「学問のすゝめ」福沢諭吉、初編より

総論

加美の地域・保護者の方々が自ら学校教育活動に参画することを目指す「地域立(学校協議会制度と同義)」の考え方にに基づき、本校の不易の理念として、長期にわたり校内・校外に掲げることができる文言としたい。

一方で、短期間での教育行政の方針変更や中長期の国・市の教育振興基本計画の改定に沿った「目標・評価指標」などの設定は、その時代に応じ、当該年度や数年間単位で、校長・教職員の裁量により対応してしかるべきであると考え。

「体験的・活動的・実践的な教育活動の機会」については、社会で生きる力を総合的に育成することを期待し、子どもたちによるアウトプットより、子供たちへの体験などによるインプットをより重視する加美の地域・保護者の声があると認識している。

* * * スローガン * * *

【子どもの笑顔のある学校】

教育者・森信三が、公教育に於いて常に念頭に置いていた「真実は現実の只中にあり」という理念がある。現れ出た現実の様相が、理念や実践の結果のすべてであるという考え。このスローガンは、最終的な子どもの現実の様相を共通のイメージとして持つことを目標として考案された。どんな教育理念も方法論も実践も、結果として子どもたちの「笑顔」に結びつかなければ、それは正しくなく、逆に「笑顔」がある学校であれば、方法論も実践も正しいとする。

強い子 明るい子 正しい子

この子ども像は、学校全体の目標とし、長期にわたり不変の目標としたい。一方、子どもの実態、年齢による発達段階、指導する教師の特徴を活かすなどの観点から、「強い子、明るい子、〇〇の子」とする三つ目の言葉は各学年に適した目標をそれぞれに設定し、生きた目標となることを目指す。

1年生	強い子 明るい子 元気な子
2年生	おもいやりのある子
3年生	優しい子
4年生	約束を守る子
5年生	賢い子
6年生	正しい子